

# テーマセッション

## ◆ ライフサイエンス分野のグローバル知財の動向 ◆

### ■ 幹事分科会：ライフサイエンス分科会

#### 【背景と概要】

知的財産政策ビジョン（2013年6月7日）にて、産業競争力強化のためのグローバル知財システムの構築が示され、より具体的な方策についての検討が必要となっている。ライフサイエンス分野における知財では、特に、公衆衛生に対する公共性と特許性のバランスについての考察が必須となる。

今回の企画セッションでは、グローバルな観点からのバイオ知財の公衆衛生に対する公共性と特許性のバランスについて、それぞれの視点からの意見とともに、参加者と共に討論を行いたいと思います。

さらに今までの分科会活動のまとめとして公共性と独占のバランスのとれた知財政策、オープンイノベーション、研究マテリアルなどの有体物に関する円滑な流通さらによりグローバル知財に対応した知財戦略について、提言を行いたいと思っています。

#### 【発表内容と講演者（講師名は敬称略）】

謝卓峰：「中国のライフサイエンス知財の動向と日本における対応」

弁理士の視点から、いままでの中国におけるライフサイエンス分野の特許に関する今までの流れと現在の課題、今後の向かう先について述べる。

吉田哲：「米国在住の弁理士の視点から見たグローバル知財の対応」

米国では、遺伝子特許の有効性が最高裁で否定されるなど、ライフサイエンスの分野で特許の動きが見られる。米国での議論を参考に日本の特許制度設計に必要な視点を紹介する。

石川浩：「ライフサイエンス産業にとってのオープンイノベーション」

ライフサイエンス産業が発展するためには、バイオ・公衆衛生特有の配慮をしたうえで、競争と協調（独占と共有）のバランスが重要とされる。これらの点について、企業の考えていることの一部を紹介する。

隅藏康一：「これからのバイオサイエンス知財の方向性」

ライフサイエンス分野のグローバル知財の公共性と独占性のバランスについて、いままでの流れを総括し今後の方向性を提示する。

鈴木睦昭：司会およびモデレーター

ライフサイエンス分科会のこれまでの歩みを紹介し、今までの討論のまとめおよび提言案を示す。

#### 【パネルディスカッション】

ライフサイエンス分野のグローバル知財について課題のまとめ、あるべき姿の討論および今後の問題点の明確化などを講演者と会場参加者と共に討論を行う。

## テーマセッション

### ◆ ライフサイエンス分野のグローバル知財の動向 ◆

#### 【講演者略歴】

○謝卓峰 謝国際特許事務所所長、登録弁理士

九州大学薬学部製薬化学科卒業、薬学博士（九州大学）武田薬品工業株式会社の研究開発の経験及び知的財産部で14年の内外特許実務経験を有する。米国、英国及び中国での駐在経験を有する。2008年謝国際特許事務所を設立。化学、医薬、バイオ及び食品分野の内外出願、中間処理、審判並びに訴訟各種特許調査、特許デューディリジェンス並びに特許の有効性及び侵害に関する鑑定業務が得意分野。

○吉田哲

金沢大学大学院化学工学専攻修了。ミズノにて商品開発部・知的財産部に勤務したのち1999年に弁理士登録、法律特許事務所での勤務を経て、2003年10月より奈良先端科学技術大学院大学産官学連携推進本部、特任助教授に着任（現・客員准教授）。2007年1月より米国バージニア州の特許事務所に所属し、米国特許実務に携わる。2009年米国パテント・エージェント試験に合格、2012年パテント・エージェント登録。日経知財Awarenessにて「吉田哲の米国知財レター」好評連載中

○石川浩 持田製薬株式会社 知的財産部長、弁理士

上智大学理工学研究科修士課程修了。持田製薬株式会社、富士中央研究所。その後、企画室マネジャー、特許部副部長を経て現職。知的財産戦略本部知的財産による競争力強化専門調査会ライフサイエンス分野プロジェクトチーム委員（2007年）。この間、(財)知的財産研究所、日本製薬工業協会、(財)バイオインダストリー協会等で知的財産に関する委員会活動を行う。IIP 知財塾第2期生。日本知的財産協会副理事長（2013年）。

○隅藏康一 文部科学省科学技術政策研究所 第二研究グループ 総括主任研究官／政策研究大学院大学 准教授

東京大学大学院工学系研究科修了（博士（工学））。東京大学先端科学技術研究センター助手をへて、2001年より政策研究大学院大学助教授、2007年より同准教授。日本知財学会理事、研究・技術計画学会理事、知的財産マネジメント研究会（Smips）総合オーガナイザー。主な著書に『幹細胞の特許戦略』（隅藏・竹田編著、発明協会、2011年）、『知的財産政策とマネジメント』（隅藏編著、白桃書房、2008年）など

○鈴木睦昭 国立遺伝学研究所 知財室室長（モデレーター）

静岡薬科大学大学院博士課程修了（薬学博士）、国立生理学研究所、テキサス大学オースチン校博士研究員、静岡県立大学環境科学研究所助手、学内講師、日本たばこ産業株式会社プロジェクトリーダーをへて2006年より現職。東大先端知財コース（IPMS）4期生。知的財産マネジメント研究会（Smips）産学連携分科会オーガナイザー。主な著書 「COP10 報告と大学知財本部が注意すべきこと」2011年11月号 Vol.6 No.11 2010 など